

オースチンのまなざし



主教 小林 尚明

小林主教様

やっとお手紙を書く心に神様がさせてくださいました。主教になられての「神のおとずれ」と今度の教会の開会演説のお言葉を讀ませて頂きました。今までのお説教や「神のおとずれ」の記事に心を動かされたことが、あまりありませんが、小林主教様は違っています。地方のお年寄りにお会いしたい。私ごとき者に、もつと話が聞きたかったとか、私の友人には、これかも、私を頼みますね、とお言葉をかけてくださいまして、愛を感じることが出来てうれしく思いました。私は(教会に初めて行った時)：さんに一目お逢いして愛を感じ、神様を信じることを、今日に至っています。教会に行くようになって私が変わったと言つて父も洗礼を受けました。：さんに会つたその日の帰りに「まづ祈りなさい。朝めざめたら集中して祈ること、道を

歩く時も神様に語りかけなさい」と教えられました。洗礼、接手を受けられたのは真面目に祈り続けました。が、今の私は主教様の言われます三つのこと(わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい)を振り返ってみますと恥ずかしくて手紙を書けませんでした。七十年近く教会に通い乍ら私はいいかい何をして来たのでしょうか。：。

イエス様に従うこと。これもなければ信仰はなりたちません。：才まで元気で生かされたことは感謝だけではないと思われませんが残り少ない年月を日々神様と共に生きる幸せを実感して行きたいとひたすら祈るのみ、これしかできない私です。これでは答えになりませんが、少し希望がわいて来ましたが、ありがとうございます。(*頂いたお手紙から)

祈る日々

教会の宣教について祈ることは大切です。しかし、私の周りの人が私を見て、クリスチャンになりたい、と思える自分に成長させてください、と祈ることの方が早道ではないでしょうか。(神戸教区主教)

フィリピン ワークキャンプ



今年2月20日(火)から

27日(火)までの8日間、フィリピン・ワークキャンプに参加しました。今回の参加者は、神戸教区3名、九州教区2名、沖縄教区3名の計8名でした。僕は、英語もタガログ語も話せないのに、どのようにコミュニケーションを取ろうかと、最初は不安がありました。しかし今回訪れた HOLY CROSS CHURCH の皆さんがやさしく接してくださったので、いつの間にかそんな不安はなくなっていました。

僕が今回一番心に残ったのは、「分け合



う」ということです。例えば、ご飯を食べる時は自分の家庭だけでなく、近所の人や友だちと分け合つて一緒にご飯を食べる、というのを見ました。また、この教会がある村には井戸が一つしかありません。この村にどれ位の人が住んでいるのかはわかりませんが、だいたい100世帯が暮らしているそうです。それ位たくさんの人がいるのに井戸は一つしかなく、乾季に入るとその井戸が干上がつてしまふので、その時はみんなで協力して高いお金を出して水を買ひ、大切にそれを分け合つてい、と聞き合つた。このような「分け合つ」という姿は、家族の間では見ることができても、近所の人や友だちとの間では、あまり見られません。時々ならそういうことはあつても、いつもではありません。

ません。そして、その「分け合つ」という姿は子どもたちの間でも見られました。ここには、日本のように遊ぶものが何でも揃つていません。あつても、買うことができません。でも、子どもたちは自分たちが楽しむこと、それは友だちと一緒に楽しむことをいっばい知つていて、いつも明るく、楽しく遊んでいました。ここにも、「分け合つ」という姿があると思います。僕はこのキャンプで心に残つたこの「分け合つ」ということを、これから活かしていきたいです。そしてまた、フィリピンの皆さんにも一度会いに行きたいと思っています。



(長田尽希・広島復活教会信徒)